様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １４ 日現在

機関番号：８２６１９
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2023
課題番号：１７Ｋ１３３６０

研究課題名（和文）１６・１７世紀中国江南地域における旅行と絵画の関係についての事例研究

研究課題名（英文）A Case Study on the Relationship between Travel and Painting in the Jiangnan Region of 16th and 17th Century China

研究代表者
植松　瑞希（Uematsu, Mizuki）

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・主任研究員

研究者番号：７０６１０３３５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：　中国の明代、16・17世紀は、経済的繁栄を背景に文人（知識人）の間で旅行に対する興味関心が非常に高まった時期にあたる。本研究では、当時の経済と文化を主導した江南の都市、蘇州（江蘇省）の画家に注目した。謝時臣（1487年生）や文嘉（1501～83）、文伯仁（1502～75）ら代表的蘇州画家の現存作品やこれに関連する文献を精査して、明代の文人たちが旅行に対してどのような興味関心を抱いていたのかを絵画史研究の立場から具体的に明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　旅行は、現代日本社会を生きる人びとも高い関心をもつ文化活動である。4、5世紀前の中国を生きた知識人たちの旅行に対する考えを知ることは、現在の旅行文化を相対化し分析することに有益である。特に本研究で対象とした明代中国の絵画作品からは、実際には旅行に赴かずに想像上の旅行を楽しむという行為の重要性、その多彩な広がりが見えてきた。これは、2019～2023年にかけ、新型コロナの流行によって一時的に自由な旅行を制限された現代人にとって興味深い先行事例と位置づけられる。

研究成果の概要（英文）：The Ming dynasty of China, from the 16th to the 17th century, was a period of great interest in travel among literati against a background of economic prosperity. This study focuses on painters from Suzhou in Jiangnan region, a city that led the economy and culture of the time. Through close analyses of existing works by representative Suzhou painters such as Xie Shichen, Wen Jia, and Wen Boren, as well as related historical documents, this study specifically clarifies the interests in travel held by literati in the Ming dynasty from the standpoint of painting history research.

研究分野：中国絵画史

キーワード：絵画　旅行　中国　文人　江南　明　清　蘇州

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

中国の明代、特に 16・17 世紀は、経済的繁栄を背景に文人の間で旅行に対する興味関心が非常に高まった時代である。当時の中国の文化・芸術を主導していた江南の都市、蘇州では、旅行文化に関係して、旅行先となった名勝を主題とする絵画作品が数多く作られ、質・量ともに豊富な現存作例がのこっている。しかし、それらに対する研究は複数の作品をまとめて論じる総括的なものが多く、個別の作品についてその主題、制作背景、受容者、表現と旅行への興味のありようとの関係などを詳細に分析する研究は十分でなかった。

筆者は、本研究開始以前にも明代蘇州の絵画と旅行文化の関わりについて研究を進め、「謝時臣筆「華山仙掌図」について―旅行文化と名勝山水図との関わりをめぐる一考察―」(『大阪市立美術館紀要』13、2013 年)、「明代の旅游文化と実景山水図―張宏筆「越中真景図冊」を中心に―」(『鹿島美術研究　年報 31 号別冊』2014 年）など、個別の作品を分析する論考を発表した。その過程で、同じ明代蘇州の画家であっても、旅行のどの部分に興味を示すか、どのような旅行体験を好むかは異なり、伝統的・文学的イメージを重視する作品、自分の実際の旅行体験を重視する作品など、大きな差があることを痛感した。また、展覧会「蘇州の見る夢」を企画して（『特別展　蘇州の見る夢―明・清時代の都市と絵画―』大和文華館、2015 年)、明代蘇州の絵画の歴史を広く概観したが、旅行文化と絵画との関わりの多様性を明らかにするためには、やはりより多くの事例研究が必要であると考えるようになった。

２．研究の目的

本研究は、中国における旅行文化の発展過程の一端を、絵画史研究の立場から明らかにすることにある。遂行にあたっては、旅行に関わる絵画の現存作例が比較的多い、明代、特に 16・17 世紀の江南の都市、蘇州で作られた絵画を主な対象とし、特定の画家・作品を多角的に詳細に分析する事例研究を重視する。申請時は、旅行文化と関係の深い画家として陸治（1496～1576)、文伯仁（1502～75)、張宏（1577 年生）の作品研究を計画していたが、本研究を進めていくなかでより充実した資料を収集できた、謝時臣（1487 年生)、銭穀（1508～79 頃)、侯懋功、文嘉（1501～83）らも対象に加えた。

３．研究の方法

(1) 画家と作品の様式・表現の検討

対象とする画家の現存作品を可能なかぎり実際に熟覧し、難しい場合は質のよい図版を詳細に分析し、相互に比較検討する。これを通じて絵画の様式や表現の特徴を理解する。また、主題を同じくする歴代の絵画作品を収集しこれと比較する。

(2) 旅行の目的地となった名勝に関係する文字資料・文学作品との比較

旅行に関わる絵画の主題となった名勝に関する文字資料・文学作品を収集、精読し、絵画様式・表現と比較分析する。文字資料・文学作品には、地方誌類、歴代の詩文、紀行文学のほか、絵画自体に書された題跋等を含める。

(3) 旅行の目的地の実際の景観との比較

名勝を実地踏査して、文学作品や絵画作品に表れたイメージと比較する。ただし、申請時に想定していたこの研究方法は、本研究期間中の新型コロナ流行とその前後の出入国制限により、中国に行くことが困難であったため、実際には採用することができなかった。

４．研究成果

以下の絵画作品を対象に、それぞれに旅行に対するどのような考え方が反映されているかを検討した。

前述したように、本研究では実際の景観との比較を行うことができなかったため、文字資料・文学作品のイメージと関係の深い作品、歴代の絵画作品に見られる伝統的な名勝表現を重視する作品を主な対象とすることになった。これにより結果的に、実際には旅行に赴かずに想像上の旅行を楽しみ、共有するという行為の重要性、その多彩な広がりを明らかにすることができた。これまでの中国における旅行文化と絵画に関する国内外の研究では、西洋の透視遠近法の採用に注目するなど、画家が実際に旅行したかどうかを重視し、言及される作品もそれに沿って集められる傾向があった。本研究ではその観点にとらわれずに個別作品研究を積み重ねることで、旅行文化と絵画の関わりの多様性に対する研究の可能性を提示することができた。

(1) 謝時臣筆「輞川積雨図」（東京国立博物館蔵）

謝時臣は、16 世紀前期に蘇州で活躍した職業的文人画家で、遠方への旅行を称賛する風潮を背景に、旅先として人気を集めた各地の名勝を多く描いた。「輞川積雨図」（東京国立博物館蔵）もそのような作例の一つであることを指摘し、唐の詩人王維の故地であり、明代には旅行の目的地としてもしばしば言及される藍田（陝西省）の輞川を、実際の景観にはこだわらずに文学的イ

メージをちりばめて詩情豊かに描いたものであることを明らかにした。
（参考：植松瑞希「明代蘇州における輞川憧憬の諸相」『輞川図と蘭亭曲水図　イメージとテクストの交響』勉誠社、2023 年）

(2) 銭穀、侯懋功、文嘉筆「洞天福地図巻」（東京国立博物館蔵）
「洞天福地図巻」は、16 世紀後期、旅行の志をもつ隠士、沈瀚（号は鴎江）のために、蘇州で活躍していた画家、銭穀、侯懋功、文嘉が道教の聖地を 10 図に描き、そこに同時代の文人たちが詩文を題した作品である。各題詩の内容と図像とを対照させつつ詳細に検討し、題詩にはそれぞれの名勝からの宗教的・文学的連想がつづられ、図像は古画に学んだ伝統的な型に依拠したものが多く、総じて聖地への憧れを幻想的に表明することを重視していると明らかにした。また、後ろに付けられた、19 世紀の文人たちの跋文も精読し、彼らが自身の旅行体験と沈瀚のそれとを重ね合わせながら本巻を鑑賞していたことを分析した。
（参考：植松瑞希「洞天福地への旅―明代蘇州における旅行絵画の一側面」『コレクションとアーカイヴ―東アジア美術研究の可能性』勉誠社、2021 年）

(3) 文伯仁筆「四万山水図」（東京国立博物館蔵）
文伯仁は、蘇州文人の領袖である文徴明（1470～1559）の甥である。その代表作「四万山水図」4 幅対（東京国立博物館蔵）の主題が、同時代の詩人、王寵（1494～1533）の旅行詩「五憶歌」と密接に関わることを確認し、旅先として人気であった、各地の名勝である渭水（甘粛省～陝西省）、泰山（山東省）、洞庭湖（湖南省）、峨眉山（四川省）の文学的イメージが画中に反映されていることを明らかにした。
（参考：植松瑞希「文伯仁筆「四万山水図」について―画風と主題の再検討」『中国美術史の眺望―中国美術研究会論集―』汲古書院、2023 年）

(4) そのほか
上記作品の比較対象として、旅行文化と直接関わるものではないが、明・清時代の蘇州で作られた絵画、その影響を受けた絵画について、下記のとおり様式分析や文字資料の検討を行ない、蘇州の絵画史理解に貢献する成果を発表した。
・仇英筆「金谷園・桃李園図」（知恩院蔵）
（参考：植松瑞希「仇英筆「金谷園・桃李園図」と明代蘇州の庭園雅集文化」『東アジアの庭園表象と建築・美術』昭和堂、2019 年）
・袁樹筆「小倉山房図巻」（東京国立博物館蔵）
（参考：植松瑞希「隨園の記録―袁樹筆「小倉山房図巻」」『美しき庭園画の世界―江戸絵画にみる現実の理想郷』静岡県立美術館、2017 年）
・銭杜筆「四囲山色一層楼図巻」（兵庫県立美術館蔵）
（参考：植松瑞希「清・銭杜筆　四囲山色一層楼図巻」『国華』1510、2021 年）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 植松瑞希	４．巻 -
２．論文標題 文伯仁筆「四万山水図」について―画風と主題の再検討	５．発行年 2023年
３．雑誌名 中国美術史の眺望―中国美術研究会論集―（汲古書院）	６．最初と最後の頁 179-198
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 植松瑞希	４．巻 -
２．論文標題 明代蘇州におけるモウ川憧憬の諸相	５．発行年 2023年
３．雑誌名 モウ川図と蘭亭曲水図　イメージとテクストの交響（勉誠社）	６．最初と最後の頁 71-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 植松瑞希	４．巻 -
２．論文標題 描かれたさまざまな雅集	５．発行年 2023年
３．雑誌名 東京国立博物館・台東区立書道博物館　連携企画20周年　王羲之と蘭亭序（台東区立書道博物館）	６．最初と最後の頁 52-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 植松瑞希	４．巻 -
２．論文標題 洞天福地への旅―明代蘇州における旅行絵画の一側面	５．発行年 2021年
３．雑誌名 コレクションとアーカイヴ――東アジア美術研究の可能性（勉誠社）	６．最初と最後の頁 368-399
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 植松瑞希	4．巻 1510
2．論文標題 清・銭杜筆　四囲山色一層楼図巻	5．発行年 2021年
3．雑誌名 国華	6．最初と最後の頁 43-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 植松瑞希	4．巻 -
2．論文標題 文氏一族の繁栄、蘇州職業画家による詩意図	5．発行年 2020年
3．雑誌名 生誕550年記念　文徵明とその時代（台東区立書道博物館）	6．最初と最後の頁 54-56,76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 植松瑞希	4．巻 -
2．論文標題 仇英筆「金谷園・桃李園図」と明代蘇州の庭園雅集文化	5．発行年 2019年
3．雑誌名 東アジアの庭園表象と建築・美術（昭和堂）	6．最初と最後の頁 45-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 植松瑞希	4．巻 -
2．論文標題 隨園の記録―袁樹筆『小倉山房図巻』	5．発行年 2017年
3．雑誌名 美しき庭園画の世界―江戸絵画にみる現実の理想郷	6．最初と最後の頁 31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　2件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 植松瑞希
2．発表標題 明代蘇州における王維憧憬
3．学会等名 「モウ川図と蘭亭曲水図」展記念シンポジウム「モウ川図と蘭亭曲水図をめぐる諸問題」（静岡県立美術館）（招待講演）
4．発表年 2022年

1．発表者名 植松瑞希
2．発表標題 明・清時代旅行文化における実体験と絵画の関係
3．学会等名 EAAシンポジウム「コロナ禍における藝術の理論と実践」（招待講演）
4．発表年 2021年

〔図書〕　計2件

1．著者名 植松瑞希ほか7名	4．発行年 2024年
2．出版社 東京国立博物館	5．総ページ数 160
3．書名 中国書画抄録（一）台東区立書道博物館、東京国立博物館、三井記念美術館蔵	

1．著者名 植松瑞希ほか6名	4．発行年 2017年
2．出版社 東京美術	5．総ページ数 119
3．書名 典雅と奇想―明末清初の中国名画	

〔産業財産権〕

〔その他〕

・研究情報アーカイブズ「中国書画録」http://webarchives.tnm.jp/dbs/daibatsu

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関